

校内研修計画書

- 1 学 校 名 孺恋村立西部小学校
- 2 学校長氏名 山本 徳幸
- 3 研修主任氏名 角田喜久雄

4 平成30年度の研修について

- (1) 主題 「主体的に学ぼうとする児童の育成」
 ～「できた、分かった」と感じる授業づくりを通して～
- (2) 成果と課題

ユニバーサルデザインへの理解を深め、授業に取り入れるとともに、「学びの約束」などの学習習慣の定着を図った。それにより、落ち着いた雰囲気の中で、学習が苦手な児童も安心して授業に参加できるようになってきた。しかし、「できた、分かった」とどの児童も感じられる授業を実現するまでには至ってない。さらに、若手教員とベテラン教員が協力し合う体制の中で、継続的に授業作りを推進していく必要がある。

5 平成31年度の研修計画

- (1) 分野 学習指導
- (2) 主題 「主体的に学ぼうとする児童の育成」
 ～「できた、分かった」と感じる授業づくりを通して～
- (3) 主題設定の理由

昨年度、本校は特別支援教育エリアサポート事業のモデル校の指定を受け、ユニバーサルデザインの視点から、特別支援の考え方や技術を生かす授業づくりに取り組んできた。それにより児童が興味・関心を持ち、見通しを持って学習に取り組むことや、学習内容を振り返り、次への学習へつなげようとする態度を育成してきた。さらに、「学びの約束」と低・中・高学年の実態に合わせた「聞き方名人」「話し方名人」をもとに、基本的な学習習慣の定着を図ってきた。それらの共通理解と実践により、落ち着いた学習環境の中で、どの児童も楽しく学び合い「できた、分かった」と感じる授業の在り方を追求してきた。但し、ユニバーサルデザインの理解など基礎的研修に多くの時間を割く必要があり、1年の限られた期間では日々の教育活動へのフィードバックは限定的にならざるを得ない面があった。

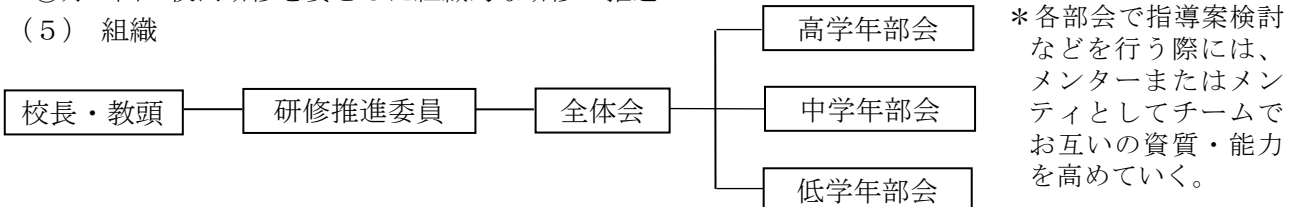
そこで、モデル校指定がなくなった今年度は、昨年度の研修成果を日々の教育活動に生かし、定着させていくことをねらい研修を進めていく。具体的には、日常の授業実践をお互いに見合い、若手とベテランが共に指導力を研鑽していく実践的な研修が有効であると考え。また、学習習慣は一朝一夕に定着することはなく、学年の壁を取り払った共通理解をもとに、継続的に日々の実践の中で地道に浸透させていくことも必要であると考え。

以上のことを踏まえ、今年度は昨年度の研修主題を踏襲し、さらに日常の実践の中で定着・深化していくことを目指すこととした。

(4) 研修内容及び方法

- ①ユニバーサルデザインの視点に基づいた支援の工夫による一人一人が活躍できる授業づくり
- ②発達段階に応じた「学びの約束」「聞き方名人」「話し方名人」の日々の授業での定着化
- ③①または②を実現するための「ミニ授業公開」の実施
- ④月1回の校内研修を要とした組織的な研修の推進

(5) 組織



(6) 年間計画

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主題、研究内容及び方法、研究計画の決定 ・ 計画訪問（授業研究会） ・ 1 学期のまとめ（成果と課題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践とミニ授業公開の実施 ・ アンケートの実施 ・ 2 学期の方向性確認
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践とミニ授業公開の実施 ・ 要請訪問（授業研究会） ・ 2 学期のまとめ（成果と課題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要請訪問での授業公開に向けた学習指導案検討 ・ 3 学期の方向性確認 ・ 研究紀要作成
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紀要作成 ・ 1 年間のまとめ（成果と課題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の研究計画案の作成

